

CentreCOM® 8624XL リリースノート

この度は、CentreCOM 8624XL をお買いあげいただき、誠にありがとうございました。
このリリースノートは、付属のマニュアルに記載されていない内容や、ご使用前にご理解いた
だきたい注意点など、お客様に最新の情報をお知らせするものです。
最初にこのリリースノートをよくお読みになり、本製品を正しくご使用ください。

1 ソフトウェアバージョン 2.2.2 pl04(2.2.2-04)

2 サポート予定機能

以下の項目は、現在未サポートとなっています。順次サポートする予定ですので、あらかじめご
了承ください。

- WEB マネージメント

オプション機能

以下の項目は、別売でのサポートとなります。

AT-FL-02

- ファイアウォール

AT-FL-03

- IP マルチキャストルーティング
- IPX ルーティング
- AppleTalk ルーティング

3 本バージョンでサポートされた機能

ソフトウェアバージョン2.1.5 pl02から2.2.2 pl04へのバージョンアップにおいて、以下の
項目がサポートされました。

- RMON MIB(1, 2, 3, 9 グループ)
- プライベート MIB
- リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」への対応
- DHCP サーバーの機能の RFC2131 への一部対応
これにより、RFC2131 準拠端末との相互接続性が高まりました。
- Telnet サーバーの待ち受け(LISTEN)ポート番号の設定(変更)
`SET TELNET [LISTENPORT=port-number]`
LISTENPORT パラメーターに 257 以降の番号を指定します。

4 本バージョンで修正された項目

ソフトウェアバージョン2.1.5 pl02から2.2.2 pl04へのバージョンアップにおいて、以下の項目が修正されました。

- 4.1 拡張モジュールAT-A39/Tの1000BASE-Tポートを使用して通信を行った場合、CLI上に「Corrupt packet」というメッセージが表示されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.2 SHOW CPU コマンドの実行によって表示される「CPU Utilisation」の値が正しくなりました。
- 4.3 パケットストームプロテクションにおいて、設定した上限値以上のパケットを受信することがありましたが、これを修正しました。
- 4.4 ポートセキュリティにおいて、SET SWITCH PORT [LEARN]コマンドの実行によって、FDBに本体MACアドレスが登録されることがありましたが、これを修正しました。
- 4.5 ポートセキュリティにおいて、設定した上限値まで学習された送信元MACアドレスが本体の再起動によってFDBから消去されていたことがありましたが、これを修正しました。
- 4.6 ポートセキュリティにおいて、SET SWITCH PORT [LEARN]コマンドで、INTRUSIONACTIONパラメーターにTRAPを指定した場合、未学習の送信元MACアドレスを受信したときにSNMP Trapを送信するようになりました。
- 4.7 DHCPサーバーとDHCPクライアントを併用した場合、DHCPクライアントからリース延長要求が送信されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.8 DHCPリレーエージェントにおいて、DHCPサーバーから送信されるDHCP NAKパケットが、DHCPクライアントの所属するVLANに転送されないことがありましたが、これを修正しました。
- 4.9 SNMP MIB オブジェクトについて、以下の修正を行いました。
 - MIB II オブジェクト [IfadminStatus] に値がセットされるようになりました。
 - MIB II オブジェクト [snmpEnableAuthenTrap] に値がセットされるようになりました。
 - インターフェース拡張グループMIB オブジェクト [ifHighSpeed] に正しい値がセットされるようになりました。
- 4.10 SNMP Trap について、本体の起動後(再起動後)に、ColdStart Trap、WarmStart Trap、および Link Trap が送信されるようになりました。
- 4.11 VLAN 間のIP ルーティングが停止する場合がありますでしたが、これを修正しました。

- 4.12 ソフトウェアIPフィルターとポートランキングを併用した場合に、ポートランキングが正しく動作するようになりました。
- 4.13 ソフトウェア IP フィルターにおいて、SET IP FILTER コマンドを使用すると、コンフィグレーションの設定条件によっては本体がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
- 4.14 ソフトウェア IP フィルターにおいて、ADD IP FILTER コマンドの PROTOCOL パラメーターに ICMP を指定した場合、フィルタリングが行われませんでしたでしたが、これを修正しました。
- 4.15 ハードウェア IP フィルターにおいて、SET SWITCH L3FILTER MATCH コマンドで IMPORT/EXPORT パラメーターの値を変更した場合、設定がただちに本体の動作に反映されるようになりました。
- 4.16 ハードウェア IP フィルターにおいて、ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで IPORT/EPORT パラメーターに 1 (ポート 1) を指定した場合、パラメーター値を設定ファイルに保存することができませんでしたが、これを修正しました。
- 4.17 スタティックエントリについて、エントリ番号 101 以降のエントリの削除 (DELETE SWITCH FILTER コマンド)、および表示 (SHOW SWITCH FILTER コマンド) ができるようになりました。
- 4.18 ルーティングの経路選択において、ADD (SET) IP ROUTE コマンドの PREFERENCE パラメーターの値が正しく参照されていませんでしたが、これを修正しました。
- 4.19 冗長構成における経路変更などの切り替わりが発生した場合、IP アドレステーブルとその他のテーブルとの同期がとれず、通信ができなくなることがありましたが、これを修正しました。
- 4.20 OSPF において、SET OSPF INTERFACE コマンドで PRIORITY パラメーターの値を変更することができるようになりました。
- 4.21 以下のような論理矛盾がある UDP パケットを受信すると、本体がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。
UDP Length に 1675Byte 以上の値がセットされたパケット
UDP Length に 0～7 がセットされ、かつ UDP Checksum に 0 がセットされたパケット
- 4.22 IP アドレステーブルのエントリ数が 2,048 以上のときにルーティング処理が行われると、本体がリブートする場合がありますでしたが、これを修正しました。

5 本バージョンでの制限事項

5.1 SNMP MIB オブジェクトについて

 [ユーザーマニュアル] 2-51 ~ 2-52 ページ

SNMP の MIB オブジェクトについて、以下のような制限があります。

- MIB II オブジェクト [ipNetToMediaPhysAddress] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dStpPriority] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot1dBaseType] に正しい値がセットされていません。
- ブリッジ MIB オブジェクト [dot3StatsFrameTooLongs] が正しくカウントアップされません。

5.2 VLAN 間の IP ルーティングの無効設定について

 [ユーザーマニュアル] 3-45 ~ 3-48 ページ

VLAN 間の IP ルーティングを行わないようにする場合は、複数の VLAN インターフェースに IP アドレスを設定しないようにしてください。(SNMPなどのマネージメントが必要な場合は、マネージメントを行う VLAN に対してのみ IP アドレスを設定します。)

DISABLE IP FORWARDING コマンドは使用しないでください。

5.3 ソフトウェア IP フィルターについて

- 特定のホストからの ICMP エコーリクエストを拒否(その他のプロトコルは許可)するという設定を行った場合、他の VLAN 配下に接続された端末から、この特定のホストに対して Ping を実行すると、フィルターの設定が無効となります。
- SHOW IP FILTER コマンドで表示される Matches パラメーターにおいて、ユーザープライオリティの設定条件に該当するパケットが正しくカウントされません。

5.4 RIP バージョン 2 について

 [ユーザーマニュアル] 3-45 ~ 3-48 ページ

RIP バージョン 2 の可変長サブネット環境において、ADD IP RIP INTERFACE コマンドで、RECEIVE パラメーターに BOTH を指定した場合、経路情報を受信することができません。RECEIVE パラメーターには RIP2 を指定するようにしてください。

5.5 ポートランキングとスパニングツリーの併用について

ポートランキングとスパニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

5.6 ポートミラーリングとスパンニングツリーの併用について

ポートミラーリングとスパンニングツリーを同一ポートに設定することはできません。

5.7 ハードウェア IP フィルターについて

ADD SWITCH L3FILTER ENTRY コマンドで、TCPACK パラメーターに FALSE を指定した場合、パラメーター値を設定ファイルに保存することができません。

6 マニュアルの補足事項

6.1 VLAN への IP アドレス設定数について

 [「ユーザーマニュアル」 3-43 ~ 56 ページ](#)

本製品の VLAN 設定数は最大 62 個 (default VLAN を除く) ですが、VLAN への IP アドレス設定数は最大 32 個となります。

6.2 スパンニングツリードメイン設定数について

 [「ユーザーマニュアル」 3-29 ~ 3-39 ページ](#)

スパンニングツリードメインの設定数は、最大 16 個となります。

6.3 QoS について

 [「ユーザーマニュアル」 3-27 ~ 3-28 ページ](#)

- 本製品は、ユーザープライオリティを 0 ~ 3 の 4 レベルのキューに割り当てることができます。
「ユーザーマニュアル」 3-27 ページに「システムは、優先度の高いキュー 3 から順に、すべてのパケットを転送した後、次のレベルのキューの転送を行います。」とありますが、正しくは以下のとおりとなっていますので、訂正してお詫びいたします。
各レベルのキューに割り当てられる帯域は、相対的に最も優先度の低いキューが 0% で、残りのキューが 100% を均等に共有するという割合になっています。割り当てられる帯域は、パケットが同時にキューイングされているキューの数により次のように異なります (数値は一番左が相対的に最もレベルの低いキュー、一番右が相対的に最もレベルの高いキューに割り当てられる帯域を示しています)。

同時に 2 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 100 (%)

同時に 3 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 50 : 50 (%)

同時に 4 つのレベルのキューにパケットがある場合 0 : 33 : 33 : 33 (%)

- タグ無しパケットは、ユーザープライオリティ「0」で処理されます。

6.4 ポートランキングについて

 「ユーザーマニュアル」 3-6 ~ 3-8 ページ

ポートランキングと VLAN 間 IP ルーティングを併用した場合、ルーティングされたパケットに対して冗長機能は動作しますが、負荷分散は行われません。

6.5 リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」について

- バージョン 2.2.2 pl04 で、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」がサポートされたことにより、ステータス LED の表示内容が以下のようになります。

 「ユーザーマニュアル」 1-8, 4-5 ページ

LED	色	状態	表示内容
FAULT	赤	点灯	本体、または内蔵ソフトウェアが故障しています。
		点滅	ファンに障害があります。 または、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」から電源が供給されています。
		消灯	システムに異常はありません。
RPS	緑	点灯	SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドで ON が指定されていて、かつ、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の DC 電源ケーブルが接続されています。
		消灯	SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドで OFF が指定されているか、ON が指定されている場合は、リダンダント電源装置「CentreCOM RPS8000」の DC 電源ケーブルが接続されていません。
PWR	緑	点灯	本体に電源が供給されています。
		消灯	電源ケーブルが正しく接続されていないか、指定した電源電圧が使用されていません。

- CentreCOM RPS8000 の状態表示には、LED の表示と CLI での表示があります。どちらも、SET SYSTEM RPSMONITOR コマンドによるモニターの有効化が必要です。

SET SYSTEM RPSMONITOR={ON|OFF}

ON(有効)/OFF(無効)で指定します。デフォルトはOFFです。OFFの場合、LEDやCLIでCentreCOM RPS8000の状態を表示することはできません。

SHOW SYSTEM コマンドで表示される以下の項目で、本体とCentreCOM RPS8000の電源状態を表示します。

Main PSU	本体の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。
RPS Monitor	CentreCOM RPS8000 のモニターのステータスです。On(有効)/Off(無効)で表示します。
RPS Connected	本製品とCentreCOM RPS8000のDC電源ケーブルによる接続状態です。YES(接続)/NO(未接続)で表示します。
RPS PSU	CentreCOM RPS8000の電源状態です。On(電源オン)/Off(電源オフ)で表示します。

6.6 ADD USER コマンドについて

 「ユーザーマニュアル」 2-28 ページ

バージョン 2.2.2 pl04 で、ADD USER コマンドに LOGIN パラメーターが追加されました。

```
ADD USER=login-name PASSWORD=password LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}
  [other-options...]
SET USER=login-name [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
SET USER [LOGIN={TRUE|FALSE|ON|OFF|YES|NO}] [other-options...]
```

LOGINパラメーターは、USERレベルのアカウント (PRIVILEGE=USER) を作成する場合に必須となります。TRUE (ON/YES) を指定した場合は、ユーザーにコマンドラインインターフェース (CLI) へのログインを許可します。FALSE (OFF/NO) を指定した場合は、ユーザーに CLI へのログインを許可しません。RS-232 経由、および Telnet 経由のログイン行為に対して有効です。

6.7 ポートセキュリティのスタティックエントリ (learn) について

 「ユーザーマニュアル」 3-12 ページ

SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合のスタティックエントリ (learn) の扱いが、バージョン 2.2.2 pl04 で一部変更になりました。

- 2.1.5 pl02 以前
スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、FDB から消去されます。
- 2.2.2 pl04 以降
スタティックエントリ (learn) は、SET SWITCH PORT コマンドの LEARN パラメーターで 0 (ゼロ) を指定した場合、(設定内容を保存しても) 本体の再起動によって FDB から消去されます。

7 DOCUMENTATION SET (CD-ROM) について

最新のコマンドリファレンスや設定例 (CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2) は弊社ホームページに掲載されています。

同梱の CD-ROM 「DOCUMENTATION SET」 が Software Release 2.1 の場合は、ホームページで最新の情報をご覧ください。

CentreCOM 9600/8600 シリーズ コマンドリファレンス 2.2 へのリンクはこちら：
<http://www.allied-telesis.co.jp/support/8624xl/manual.html>

